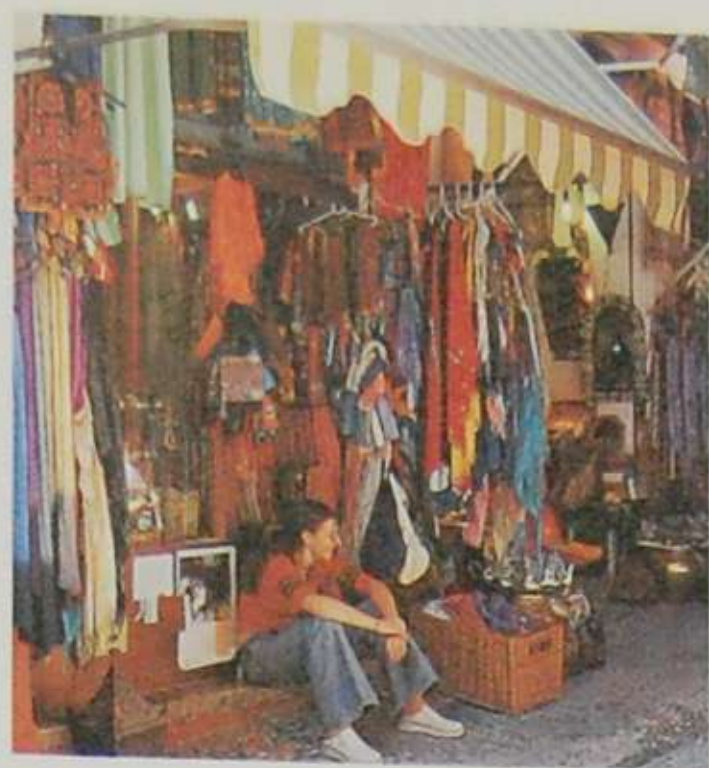


イスラム時代の市場跡(アルカイセリア)には土産物屋が立ち並ぶ。



民族衣装店も多い。



楽しいと感じれば自然と体が踊りだす! 陽気なスペイン気質は場所と時を選ばない。



<女王イサベルにひざまづくコロンブスの像>
アルバシシオン地区を真正面に見渡せるサンタフェでコロンブスは、女王と大西洋航海計画の契約を交わし「海洋提督」として大西洋を横断。西インド諸島を発見し、大航海時代の立役者に。

グラナダは落ち、その日、ひとつの時代は終わった

栄華を極めたグラナダ王国も1492年1月2日、イサベル、フェルナンドのカトリック両王の手により陥落する。アルハンブラ宮殿に入った女王は、その美しさに感激し、即座にこの宮殿の破壊を禁じたという。宗教的優位を保つためにイスラム建築を破壊してきた彼女からは考えられないことである。女王は生涯グラナダを愛し、今もこの地で眠っている。1492年といえは、コロンブスが新大陸を発見した年でもある。そして、この年を境にスペイン・ポルトガルを中心とした大航海時代が始まったのだ。

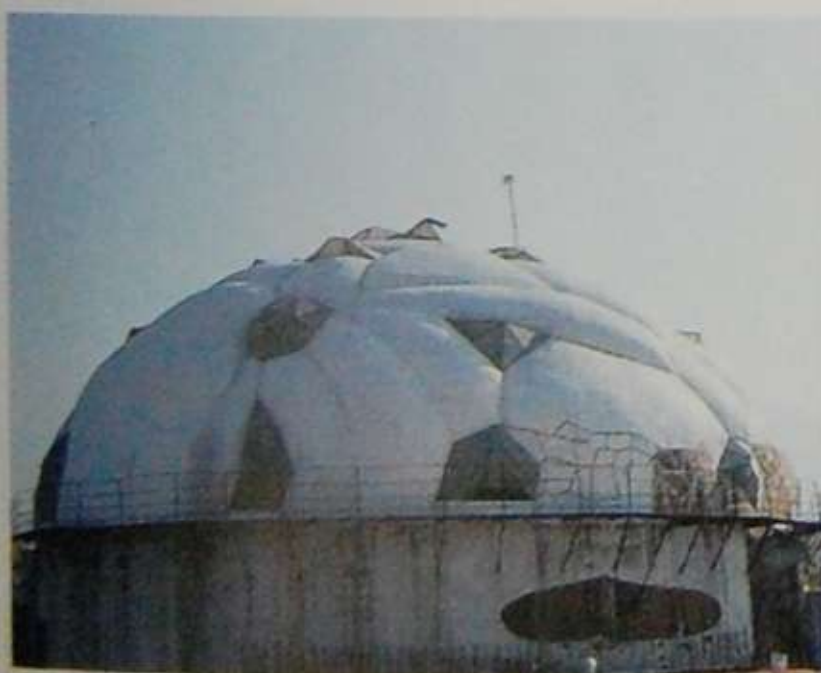
一方、800年近く続いたイスラム統治の幕は降ろされ、改宗を拒否したイスラム教徒が国外退去を命じられると同時に、グラナダは凋落の一途を辿る。しかし、イスラム統治時代に発達した産業(工業、林業、農業)や食料品(コメ、サフラン、レモン、砂糖)、皮革製品、金属製品などのさまざまな物品、また、詩、文学、哲学、数学、医学、芸術、天文学などの知識と知恵は、現代ヨーロッパ文化の礎の一部となった。

完成時期未定の美術館を建設中 グラナダの 芸術家を訪ねて

グラナダには芸術家を惹きつけてやまない何かがあるのかもしれない。ミゲル・ルイス・ヒメネスさんもそのひとりだ。7歳の頃より陶芸の道を志したミゲルさんは彫刻、建築とその活動の場を広げていった。数々の個展やコンテストなどの受賞で、国際的にも評価されるようになった。そんな彼だが、1993年の年から人生最大の作品に取り掛かっている。そ



信念を持ち、今日も創作に励むミゲル氏。



サッカーボールがモチーフの屋根は、遠くから眺めても異彩を放っている。



ミゲル氏によって再現されたイスラム時代の陶器。



ユニークな外観と異なり、美術館内は落ち着いた雰囲気だ。

「完成はいつ頃になりますか?」という質問に、「たぶん、僕が死んだ後」という答えが返ってきた。まさに未完のサグラダ・ファミリアを手がけたアントニオ・ガウディのようである。これは美術館。自らの作品を収めるためだ。グラナダ郊外の丘の上に建築中のこの美術館は、サッカーボールがモチーフの屋根や独特な作風の鉄扉や入り口までの小道が既に完成。そのすべてを彼自らが設計し、施工している。アルハンブラ宮殿で慈しまれた陶器の再現品や巨大な彫刻などが既に陳列され、落成の時を待っている。